

鳥獣の 保護管理・ 被害対策

島根県西部地域で初めて確認した クマハギ被害の実態

研究の背景・目的

ツキノワグマは、スギ、ヒノキの造林木の樹皮を剥皮して木部表面を摂食する「クマハギ」と呼ばれる被害を与えます(写真)。クマハギは本州各地で深刻な林業被害として問題となっていますが、島根県ではこれまでクマハギ発生への報告はありませんでした。また、西中国地域の他県(広島県、山口県)での発生に関する報告もほとんどありませんでした。ところが、2006年に島根県西部の益田市などにおいて、局所的にクマハギの発生を確認しました。そこで、本県で初めて認められたクマハギの発生実態を明らかにするための実態調査を行いました。



写真 クマハギ被害

研究方法

2006年度に聞き取り調査によって、9林分においてクマハギの発生を確認しました。2006年11月～2007年9月に、このうちクマハギが比較的多数発生していた益田市のスギ、ヒノキの3林分で詳細な被害調査を実施しました(表-1)。また、2007年5月に2005年以前に発生した1被害林で、加害年の異なる被害木を6本伐倒し、円盤を採取して加害年を判定しました。

場所	益田		匹見		美都	
	標高(m)	樹種	標高(m)	樹種	標高(m)	樹種
益田市左ヶ山	240~270	スギ・ヒノキ	益田市匹見町	700~770	益田市美都町	580~620
林齢	12	16	1	7.5	29	29
面積(ha)	7.5	1	1	7.5	1	7.5
傾斜方向	北	東	北	東	北東	北東
平均傾斜度	26	35	35	33	33	33
平均胸高直径(cm)*	10.0±2.5	11.6±3.2	11.6±3.2	19.0±4.2	19.0±4.2	19.0±4.2
枝打ち・間伐状況	未実施	未実施	未実施	2004年に間伐を実施	2004年に間伐を実施	枝打ちは未実施

* 平均値±標準偏差。

研究状況

調査プロット内の被害率は、益田のスギ、ヒノキ林36%、匹見のヒノキ林32%および美都のスギ、ヒノキ林19%であり、すべての被害が2006年の6月頃に発生していました。益田と美都では、樹種による被害率の差は認めませんでした(表-2)。林分全体で見ると、いずれも局所的に群状に発生していました。いずれの被害林においてもクマハギは胸高直径の太いものに偏って発生し、山側から加害されたものがほとんどでした。また、被害木はほとんどが地際部から剥皮されており、剥皮部の上端高は地上15～280cm(平均118～147cm)の高さに達していました(表-2)。2005年以前に発生したクマハギは、2, 5, 7, 11, 13, 18年前(被害発生年は2005, 2002, 2000, 1996, 1994, 1989年)に加害されていました。したがって、本県では少なくとも約20年前から本数の多少にかかわらず、クマハギが発生していたことが分かりました。

表-2 クマハギの発生状況

	益田	匹見	美都
調査面積(ha)	0.1	0.4	0.2
調査本数	121	1027	290
被害本数	43(37)	324(32)	56(19)
被害木の平均胸高直径(cm)*	11.2±2.6	14.1±2.0	22.6±4.8
無被害木の平均胸高直径(cm)*	9.2±2.2	10.4±2.9	18.1±3.6
被害発生年月日	2006年6月頃	2006年初夏	2006年初夏
発生状況	群状	群状	群状
被害木のうちの枯死率(%)	46	6	0

* 平均値±標準偏差

表-3 剥皮部の高さ

	剥皮部の上端高		
	平均値(cm)*	最小値(cm)	最大値(cm)
益田	123.5±50.1	60	180
匹見	118.9±48.6	15	230
美都	147.3±52.9	20	250

* 平均値±標準偏差。

研究成果の活用

今後のクマハギの発生動向を把握し、発生原因の究明とともに、被害回避法を検討します。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207 問い合わせ先 0854-76-3819

所属グループ 鳥獣対策グループ

担当研究者 澤田 誠吾(さわだ せいご)

E-mail chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名: ツキノワグマの保護管理と錯誤捕獲回避技術の開発(H18～20)